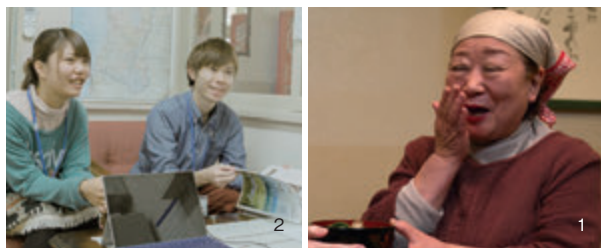




知らない
土地だって、
自分次第で
居場所は
つくれるんです



1「照子ママ」の愛称で地元の人に愛される、きりたんぼコーディネーター。地元ラジオ局で番組を持つほどの食通です。2 会社には同世代の社員が多いので、「何でも気兼ねなく話することができるのがうれしい」と福井さん。

まあ一杯！



鹿角の冬といえば、きりたんぼ鍋に日本酒。どちらも米から作られているので、相性抜群です。皆で集まってわいわい鍋をつつき、盃を傾ければ、外の寒さなんて忘れてしまいます。

株式会社シーティーイー
鹿角事業部
福井隆成
青森県青森市出身

青森市の高校を卒業後、弘前市の専門学校でデザインを専攻。デザインの仕事がしたいと株式会社シーティーイーに就職し、それを機に鹿角市へ。移り住んで2年余り。

Smile Life in Kazuno

02

思い切って足を踏み出せば、
温かく迎えてくれる人たちがいる

移住を楽しむコツは
ちよつとした勇氣。

出身は青森です。高校を卒業して、弘前の専門学校でデザインを勉強していました。就職説明会で出会ったのが今勤めているシーティーイーです。サービス業やシステム系の企業がほとんどだったので、今まで学んできたデザインの仕事ができるというのはとても魅力的で、それで鹿角で就職することに決めました。

まったく知り合いがいなくて心細かったのですが、そのことを社長に話すと「移住者の会」を紹介してもらえました。鹿角市は移住支援に力を入れていて、月に一度、移住者が集まる情報交換会

所の人たちもみんな温かく迎えてくれました。山に川に湖と、こんなにも雄大な自然に囲まれていると、のびのびして朗らかな人になるのかもしれないね。

最近スノーボードを始めました。温泉に釣りにスキーに、趣味はいくらでも増やせます。それに、鹿角ってアクセスがすごく良いんです。



1 こんがり焼かれたきりたんぼ。米のつぶし具合や厚み、焼き加減はお店によってまったく変わります。2 鶏肉に、長芋と山芋を加えたヘルシー肉団子。お母さんの優しい味が、移住者を温かく迎えてくれます。

を開いています。お花見やバーベキューをしたり、鹿角の伝統を知る企画があったり。中心となっているのは「移住コンシェルジュ」という人たち。コンシェルジュの方々も移住者なので、不安な気持ちをわかってくれました。気兼ねなく話すことができて、「何でも言うてくさいね」という言葉がうれしかったです。知らない土地でも、自分さえオープンであれば、いくらでもつながりをつくっていけると思います。

鹿角に住んで一番驚いたのは、すれちがう小学生が「おはようございます」と元気に挨拶をしてくれることでした。最初は驚きでしたが、明るく声をかけてくれるのはやっぱりうれしいものです。近

青森への帰省も2時間弱ですし、盛岡にも、秋田にもすぐ出られます。足を伸ばせばもつとたくさんこのことを経験できますよ。「移住」というと敷居が高いように感じるかもしれませんが、少しだけ勇気を出して、自分から外へ出て行こうとしさえすれば、鹿角には迎えてくれる場所がたくさんあります。



きりたんぼ発祥の地といわれる鹿角。鍋は醤油味がベースで、具材は地鶏、キノコ、ゴボウ、セリなどが一般的です。きりたんぼに出汁が染み込んだら出来上がり。